

みんなで作るブイブイの森

兵庫県三田市公園みどり課 前中徹・倉本健次・矢津政広

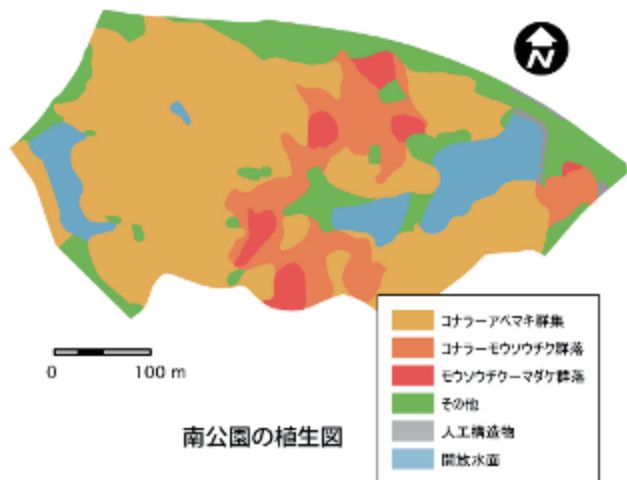
はじめに

「ブイブイの森」は三田市の南部、フラワータウンに位置する約 15ha の里山林である。コナラやアベマキなど落葉高木で広く覆われ、生物多様性を保全する重要な場所として三田版レッドデータブックでは B ランクに指定されている。地域に潤いを与え、自然と共生するまちづくりを進める上で欠かせないまちなかの里山林である。一方、人の関わりは薄く、手入れが行き届かなくなった事により照葉樹やササ、タケなどの面積が拡大。里山林としての価値は損なわれつつあった。

里山林としての価値を将来へ引き継ぐ為には従来からの行政主導型の管理、活用ではなく、恩恵を享受する市民をはじめ行政、研究機関が共に手を携えながら次代へ豊かな自然環境と生物多様性を継承していく必要がある。表題の「みんなで作る」とは前述した多様な主体の協働による里山林づくりを指し、本レポートはその過程について集約したものである。

現状について

ブイブイの森の植生はコナラやアベマキなどの夏緑高木が多数を占め、その割合は全体の 55% に上る。その他、コナラ林へモウソウチクが侵入する群落が約 14% を占めている。モウソウチクーマダケで構成される高密度のタケ群落は 4% となっている。その他約 10% は人工的に植栽されたアカマツ林やスギーヒノキ林。北側の幹線道路沿いはニセアカシアならびにトウネズミモチなどの人工林が占める。林内に存在するため池周辺では全表面積に対する割合は低い。ハンノキ、ジャヤナギなどが群落を形成し、湿地に生息する植物や昆虫などいきものの重要な生息場となっている。



課題について

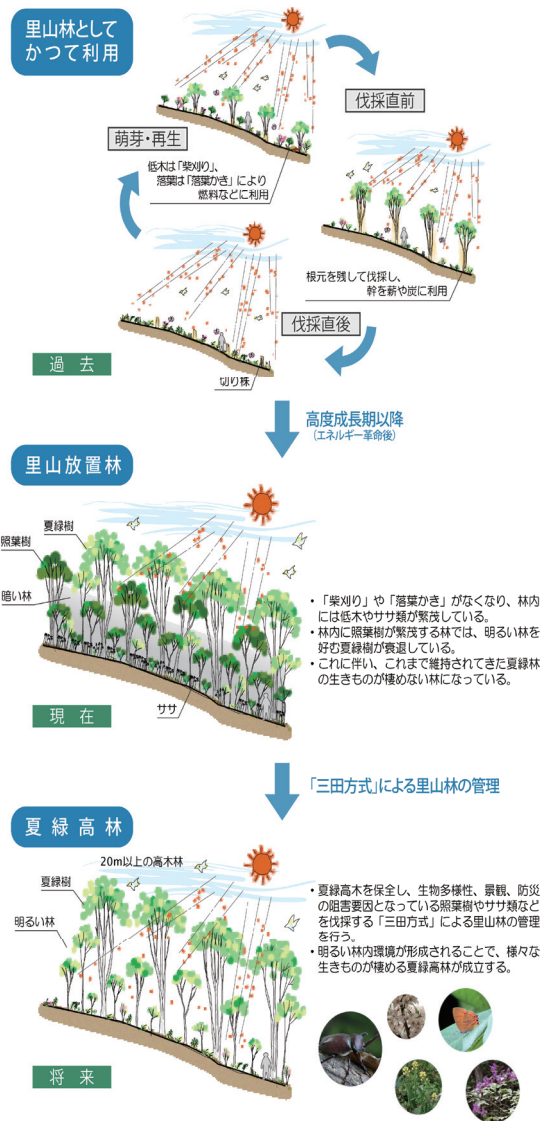
林内で多数を占めるコナラ-アベマキ群落内には管理の放置によりササ類やツル性植物などが繁茂している。またモウソウチクやマダケなどタケ類も高い密度で侵入している。結果的に林内の光量不足を招き、種多様性の低下、里山景観の悪化などの悪影響を及ぼしている。侵略的外来種であるニセアカシア、トウネズミモチについては現時点での拡大は見られないが将来的に侵入源となる可能性がある。



(左図) 林内にツル性植物やササ、タケ類が侵入する様子
※まちなか里山セミナーによる現地踏査

三田市内には「高平ナナマツの森」、「観福（かんぷく）の森」、「有馬富士公園」など多くの整備された里山林が存在する。これらはボランティア団体や企業、研究機関などが積極的に関わりを持つ事で継続的に保全が図られている。ブイブイの森については市南部の市街地に位置し、周辺からのアプローチも容易であり、まちなかの立地を活かした里山づくりを推進する事とした。

- ブイブイの森の価値を維持、増進する為、明るく、種多様性の高い里山林へ誘導できる夏緑高林方式での管理を行う。
- 夏緑高林方式（三田方式）とはコナラなどの夏緑高木を保全し、ソヨゴ、ヒサカキなどの照葉樹、ササ類やツル性植物などを市民参画により選択伐採する。
- 市民参画型の里山管理を行い、管理活動を通じた交流、地域コミュニティーの場としての活用と共に、訪れた市民が林内で自然環境を学び、楽しむ場とする。
- 取組にあたっては市民、研究機関、行政が三位一体となって連携し、それぞれに不可欠な財政的・人的・技術的な要素の担い手となり、協働での実施を推進する。
- 市民参加については行政のコーディネートと研究機関のサポートにより講習会を実施し、里山林に関する管理、環境学習の場を企画する。



取組について

方針に基づき行政（三田市）と研究機関（県立人と自然の博物館）により里山林管理の市民参加に向けた人材育成プログラムを策定。講座内容は①里山の基礎知識、②植生調査、③安全対策、④伐採実習、⑤総括を一年間かけて履修する。新規の担い手を育成する必要がある事から当面の間は毎年開催とした。名称は「まちなか里山セミナー」とし、本セミナーの修了生を対象に実際にブイブイの森で活動する団体への加入を呼びかける事とした。



活動について

まちなか里山セミナーが2期目を終えた2014年12月、実際に森で活動する「(仮称)ブイブイの森活動団体」が29人の会員と共に発足した。前述のとおりセミナーでの参加を促してきた事から多くの参加があった。会員の世代構成としては60代が多いものの、少なからず女性や現役世代からの参加があった。参加の理由としては、「他で里山活動を経験済みでブイブイの森への関心が強い」というものや、「経験は全く無いが何かを始めたかった」というものが比較的多く、その他、特徴的な声としては「親子で昆虫採取ができるような明るく楽しい森にしたい」、「子どもの頃に遊んだ里山の風景を思い出しながら取り組みたい」など具体的なイメージをもって参加するものまで様々であった。活動に際しては実際に危険な作業が伴うと共に、活動への動機づけの意味合いも含め、各自で掛金を支払う形で「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済」への加入を義務付けた。

情報共有について

森での活動開始後、会員同士の親睦と活動の情報発信を図る事を目的に、毎作業後に会報誌を発行してきた。2015年2月の第1号を皮切りに月1～2回の頻度で現在(2016年1月)まで15号を発行した。制作は現在のところ行政(三田市)が担っている。内容は作業風景、会員からの声、今後の作業に活かせる改善点、森の変化の様子など多種多様に盛り込んでいる。今後は他の里山管理団体等との交流資料としての活用も考えられている。

中間総括ならびにゾーニングについて

活動組織の発足から約半年後の2015年7月、現地での活動を踏まえ、ブイブイの森の設計図となるゾーニング案について会員間で議論を交わした。議論の土台となった案については、各種条件や活動状況を考慮し原案を行政(三田市)で作成。調整を研究機関(県立人と自然の博物館)で行なった。



第1号
発行日：平成27年2月13日
発行：ブイブイの森活動団体

ブイブイの森だより

里山キーワード

コロナ：落葉性の高木、縦方向に不規則な裂け目のある樹皮が特徴。かつてはクヌギと共に薪や炭など生活の中で貴重な燃料として活用されていた。近年では燃料としての利用が激減し、樹齢な後継樹が求められている。



園内で初めての活動

ブイブイの森に放射し込む



この人だあれ？

「顔は分かるけど、名前が…」今回はブイブイの森に携わる市公園みどり課の職員を紹介します。



職員A
「山事(山仕事)で、市人にも話しかけています」



職員B
「自然観察、林道、はさかコーン(子)に専念」

今年も里山セミナーを開催

「ブイブイの森」の活動団体設立に向けた取り組みは、23年(今年)から始まりました。三田市も県立人と自然の博物館と共同で、里山の基礎知識から植物調査、伐採実習などをセミナー形式で実施し、今年からこれまで延べ150人以上の方が受講されました。今年そのうち29人が「わたしの森をわたらの手で守ろう」、「明るく楽しい公園にしていきたい」と将来の姿を思い描きながら参加されました。セミナーは今年度も開催予定。知り合いの方や興味のある方などへぜひ参加を呼び掛けてみましょう。

会員からは「里山としての活用のみならず、公園として人を呼び込む施策が必要」との意見から「誰もが訪れる事ができる休憩スペースの設置」などが案として出された。また活動する上での「用具保管庫やトイレの設置(現在は設置済み)」、「野鳥の生息地を残す」などより具体的な意見もあった。実現の可能性は別として「アカマツ林が存在する事からマツタケ林を復活」や「現地の植生以外の新たな植樹」なども意見として出された。議論を経て大きくは下記5つのゾーンに分けた。

- ①エドヒガン保全ゾーン…森に残るエドヒガンの保全。
- ②野生動物生息環境保全・学習ゾーン…野鳥や小動物の営巣などの為、自然遷移に委ねる。
- ③植物の多様性優先保全・学習ゾーン…多様な夏緑性の植物を優先して保全する。
- ④水辺環境・景観保全ゾーン…水際の植物を保全し、ため池の景観を楽しむ。
- ⑤外来種駆除ゾーン…外来植物の侵入を防ぎ、駆除する。



まとめ

構想から活動開始1年後までの経過を集約した。ブイブイの森では既に林床から新たな植生が芽生え始め、活動による変化の息吹が感じられている。会員はもとより森を訪れる市民が変化を実感する事により、薄暗い森の印象も次第に変化して行くものと思われる。また、他の里山林には無いまちなかという特性から、ややもすると組織の論理に陥りがちな活動とは一線を画し、地域からの声を取り入れながら活動に活かして行けるものと考えられる。基本方針ならびにゾーニング等、基本的な指標は持ちながらも、従来からの考え方や行動に縛られる事なく新たな発想や着目で、みんなでつくる森づくりを目指したい。

